

仙台の七夕さま

「♪～1、ささの葉 サラサラ のきばに ゆれる お星さま キラキラ 金銀砂子

2、五色の たんざく わたしが 書いた お星さま キラキラ 空から 見てる～♪」

日本人なら何度も口にした「七夕さま」の童謡だ。幼稚園、保育所に通う孫たちが、小さな笹の枝に折り紙の短冊をつけて持って帰って来た。おそらく皆で七夕さまを歌ったであろう。

七夕とは元もと中国の行事であったものが奈良時代に伝わり、日本の棚機津女（たなばたつめ）の伝説と合わさって生まれた言葉である。

ここ仙台では伊達政宗の時代から続く伝統行事となっており、規模の大きさに加え優雅さと飾り付けの豪華絢爛さなど、仙台七夕としてその名を全国に馳せている。ここの七夕は7種類の七夕飾りが飾られている。

学問や書の上達。病や災いの身代わり。長寿。商売繁盛。豊魚。清潔と儉約。そして今では頭にくす玉が付く織姫の織り糸を象徴する七夕が主流となっている。

この七夕飾りは仙台駅前から中央通り、一番町通りのアーケード街にかけて、更には周辺部の商店街でも色鮮やかな七夕を楽しむことが出来る。8月6日～8月8日までの期間は毎年200万人を超える観光客で賑わっている。

子供のころに短冊に書いた私の願いは今叶っていたのだろうか？

撮影 2014 年夏

